

1 対象	ビジネス情報科 2学年C組（男子12名、女子15名）	指導者：板垣 しのぶ
2 日時	平成18年10月31日（火）5校時	
3 場所	2C教室	

4 単元（題材）	標準原価計算（原価計算 一橋出版）
----------	-------------------

5 単元設定の理由	<p>単元観 これまでの学習では実際にかかった原価をそのまま集計して製品の原価を計算する実際原価計算を学んできた。実際原価計算では製品の原価に無駄や不能率が入り込み、原価管理には約立たない。 製品の品質は下げないで、より安く効率的に製造し、原価をできるかぎり低く抑えていこうという原価管理に役立てるために標準原価計算がある。 そこで標準原価計算では、無駄や不能率を排除した標準原価によって製品の原価を計算し、実際原価と比較して、差額（差異）を計算分析することによって無駄や不能率を改善していくことを学習する。</p> <p>生徒の実態 専門高校という事情から専門科目に対する意欲は高く、さらに検定科目に対しては取得したいという意識を持っているため、日常から検定を意識して授業に取り組んでいる。そのため、演習問題などは黙々と取り組む姿勢がみられる。わからないところは積極的に質問する生徒もいれば、答えから逆算して導き出す生徒も多く、授業中は手を休める生徒は少ない。</p> <p>本単元で工夫する点や手立て 教師の一方的説明をなるべく避け、生徒自ら考え学習活動するよう配慮する。説明後、一回自分で問題を解く時間を与え、生徒の様子を見ながらヒントを与えていきたい。一定時間経過後、解答を行う。特に式の丸暗記をさけるため、図を適宜使い説明する。</p>
-----------	---

6 単元の目標	原価管理の基本的な意味及び標準原価計算の一連の手続きについて理解する。特に、標準原価計算から得られる情報を原価管理に活用できるように、直接材料費差異・直接労務費差異・製造間接費差異の分析について理解する。また、パーシャルプランによる記帳ができるようにする。
---------	--

7 指導計画	<p>全9時間扱い</p> <p>第1時限目 原価管理と標準原価計算、標準原価計算の特色、標準原価計算の手続き</p> <p>第2時限目 原価標準の設定、標準原価の計算、実際原価の計算</p> <p>第3時限目 原価差異の計算と分析（直接材料費差異、直接労務費差異）</p> <p>第4時限目 原価差異の計算と分析（製造間接費）本時</p> <p>第5時限目 標準原価計算の記帳法</p> <p>第6時限目 記帳と分析の例示</p>
--------	---

8 評価	評価規準	評価A	評価B	評価C	評価方法
	関心・意欲・態度	原価管理に関心を持ち、原価差異の計算と分析をしようとする意欲がある。	原価差異の計算を学ぼうとする。	プリントに必要事項を記入する。	学習プリント
	思考・判断	図の内容を理解し、正しく原価差異を計算ができ、企業にとって有利差異、不利差異の分析ができる。	図から原価差異を計算することができ、有利差異、不利差異の区別がつく。	計算には取り組むがスムーズに計算できない。（ヒントを与え取り組ませる）	学習プリント及び問題集
	技能・表現	標準原価計算に関する計算技能を身につけ、標準原価計算をパーシャルプランで記帳できる。	標準原価計算を理解し問題を解くことができる。	つまづきが、あり最後まで解くことができない。（つまづきが計算の段階なのか、記帳の段階なのかを判断し、ヒントを与える）	問題集
	知識・理解	標準原価計算の知識を身につけ、分析でき、応用に対応できる。	標準原価計算を理解し問題を解くことができる。	標準原価計算の問題を解くことができない。（個人指導で基本を身につけ理解させる。）	問題集

学習指導案

科目 目
日時 校時
科・学年・組
教科書・教材
担当者

原価計算
平成18年10月31日(火)5校時
ビジネス情報科2年C組
原価計算 一橋出版
板垣 しのぶ

指導項目	原価差異の計算と分析
目 標	製造間接費差異（予算差異、能率差異、操業度差異）分析ができる。

学習過程	学 習 内 容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 (10分)	前時の復習	・標準原価と実際原価の違いについて復習	・差異分析にあたり、当月作業量を算出しなければならないことを説明	< 関心・意欲・態度 > プリント使用
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・製造間接費差異の種類 ・製造間接費差異を出すための表を作成しながら、用語を説明する。 ・プリントの練習問題を使って一緒に解答する。 ・問題集を各自解く ・答え合わせを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回配布のプリントに記入させる ・変動費と固定費の違いを説明する ・図に入る用語を説明する。 ・プリントの問題を一緒に解く。最初に、当月作業量を算出させてから、予算差異、能率差異、操業度差異を計算し、製造間接費差異を算出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製造間接費差異の図を板書する。 ・式に当てはめて計算させないよう注意する。 ・マイナスになれば不利差異であることを注意させる。 ・机間巡視をしてわからない生徒には適宜ヒントを与える。 ・答えの導き方を説明しながら答え合わせを行う。 	< 思考判断 > プリント使用 ・問題集 P130、 27-6 を活用
終結 (10分)	<p>本時のまとめ</p> <p>次時の予告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・製造間接費差異の図を見せながら、予算差異、能率差異、操業度差異の出し方を復習する。 ・標準原価計算のよる記帳を次回行う 	・この算出が次回にも生かされるので、確認しながら復習する。	